

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【公表番号】特表2010-513625(P2010-513625A)

【公表日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-541967(P2009-541967)

【国際特許分類】

C 08 F 4/654 (2006.01)

C 08 F 10/02 (2006.01)

C 08 F 4/02 (2006.01)

【F I】

C 08 F 4/654

C 08 F 10/02

C 08 F 4/02

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月8日(2010.11.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

Ti、Mg、Cl、及び場合によってはOR^I基(式中、R^Iは、0.5より低いOR^I/Tiのモル比を与えるような量以下のC₁~C₂炭化水素基である)を含み、以下の特性：

- BET法によって測定して80m²/gより低い表面積；
- 水銀法によって測定して0.70~1.50cm³/gの範囲の全多孔度(P_T)；
- 0.1~0.8の範囲の(P_T-P_F)の差(式中、P_Tは全多孔度であり、P_Fは1μm以下の半径を有する孔による多孔度である)；
- 触媒成分の全重量を基準として10重量%未満の触媒成分中のTiの量；

を有することを特徴とする、オレフィン重合用の触媒成分。

【請求項2】

化合物：MgCl₂·m(R^IOH)_tH₂O(式中、0.3m1.7であり、tは0.01~0.6であり、R^Iは、1~12個の炭素原子を有するアルキル、シクロアルキル、又はアリール基である)を、式：Ti(OR^I)_nX_y-(式中、nは0~0.5の範囲であり、yはチタンの原子価であり、Xはハロゲンであり、R^Iは1~8個の炭素原子を有するアルキル基である)のチタン化合物と反応させる第1工程(a)；及び、工程(a)から得られる固体生成物を100より高い温度で行う熱処理にかける第2工程(b)；を含む、請求項1に記載の触媒成分の製造方法。

【請求項3】

熱処理を有機金属アルミニウムハロゲン化物の存在下で行う、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

(b)から得られる生成物を電子ドナー化合物と接触させる工程(c)を更に含む、請求項2又は3に記載の方法。

【請求項5】

請求項1~3のいずれかに記載の固体触媒成分とアルキルアルミニウム化合物の反応の

生成物を含む触媒系の存在下で行う、エチレンの(共)重合方法。